

---

# 奄美群島成長戦略ビジョン2033の概要



奄美群島広域事務組合

---



# ～奄美群島成長戦略ビジョン2033概要～

## 奄美群島成長戦略ビジョン(現行)

(2014年～2023年)

### 基本理念

群島民が幸せに生活するため、重点3分野を基軸として雇用の創出に重点を置いた産業振興を目指す

### 奄美群島の将来像

- ・若者がチャレンジし、夢を実現する島
- ・全ての「島ちゅ」が主人公として活躍する島
- ・世界の人々に魅力を伝える宝の島

### 4つの柱

- ・人材の確保・育成、教育
- ・奄美群島の魅力の発揮
- ・共生・協働の推進、交流・連携の強化
- ・市場の拡大(ヒト・モノ・カネ・情報)

### 重点3分野(産業振興の基軸)

農業      観光／交流      情報

### +2分野

文化      定住

## 奄美群島成長戦略ビジョン2033

(2024年～2033年)

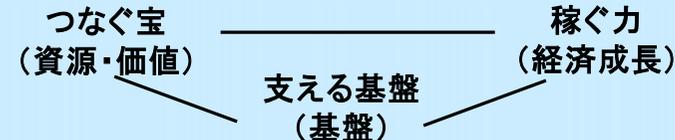
### 基本理念

群島民が幸せに生活するため、前ビジョンの基本理念である重点3分野を継承しつつ、新たに**3つの柱(つなぐ宝、稼ぐ力、支える基盤)**を基軸として、**自然と文化を守り受け継ぐ**とともに、**仕事の創出**に重点を置いた産業振興を目指す

### 奄美群島の将来像

- ・若者がチャレンジし、夢を実現する島
- ・全ての「島ちゅ」が主人公として活躍する島
- ・宝を守り、受け継ぎ、世界の人々と共有する島

### 3つの柱



### つなぐ宝3分野

自然環境      文化

教育

(教育で自然と文化を次世代に繋ぐ)

### 稼ぐ力4分野

農林水産業      ものづくり

観光／交流      情報通信業

### 支える基盤3分野

ひと      エネルギー      デジタル

(教育、人材育成／確保、定住)      (再生可能エネルギー)      (DX、情報通信インフラ)

## 1. ビジョン策定の意義（新ビジョン掲載頁：1～3）

## ➤ ビジョン策定の目的

奄美群島12市町村は「奄美群島成長戦略ビジョン」のもと、各種施策に取り組み着実に成果を上げてきたところ。一方で、各種課題が残されており、今後は社会情勢の変化を踏まえながら、「群島民の幸福度」をさらに高めていくことが求められる。奄美群島の持続的発展に向けて基本理念と将来像を示すことで、その実現に向けて住民、民間事業者、教育機関、行政など全てのプレイヤーが連携していくための指針となることを期待する。

## ➤ 奄美群島の役割

## 【国家的役割】

島民が住み続け人口を維持し、自立的な経済活動が営まれる環境を守ることは国土保全や国土防衛としての基盤要素

## 【国民的役割】

国立公園指定や世界自然遺産に登録され、先人たちのたゆまぬ努力の上に成り立っている自然や歴史、文化を継承・活用することによって国民に人間性回復の場を提供



新ビジョン懇話会提言書提出(R5.2.21)

➤ ビジョンの位置づけ

奄美群島振興開発特別措置法（奄振法） 昭和29年度～

➤ 奄美群島振興開発基本方針（法第4条）

奄振法に基づき国が策定する振興開発の基本方針

➤ 奄美群島振興開発計画（法第5条）

奄振基本方針に基づき県が策定する計画

## 【法第5条第5項】

鹿児島県は、振興開発計画を定めようとするときは、あらかじめ、奄美群島内の市町村に対し、当該市町村に係る振興開発計画の案を作成し、同県に提出するよう求めなければならない。この場合において、当該求めを受けた市町村は、単独で又は共同してその案を作成し、及び提出することができる。

## 2. 時代の潮流と社会の変化への対応（新ビジョン掲載頁：4～5）

## 【奄美群島の動向】

## ➤ 人口減少

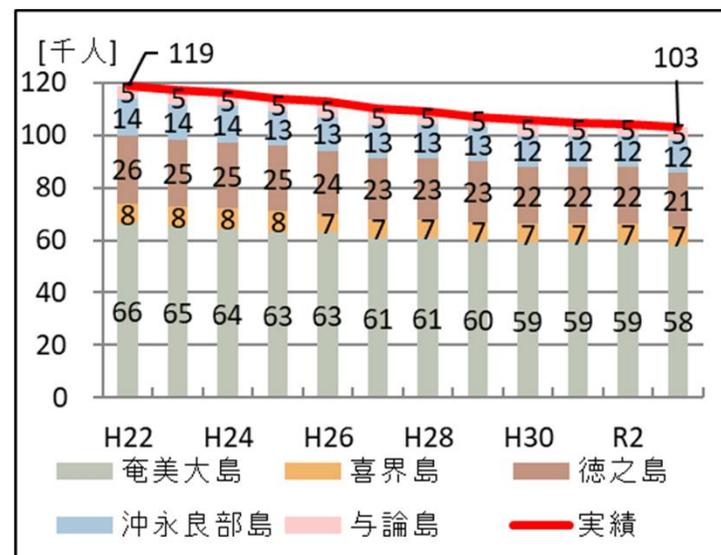
令和2年度の国勢調査では104千人となっており、昭和30年時（205千人）と比較すると約半数まで人口減少が進行。

## ➤ 大規模災害時の備え

島外の物流システムに依存している島嶼部では、大規模災害時の対応を検討する必要がある。

## ➤ 人材確保・育成の取組

・学校教育や生涯学習のほか、エコツアーガイドの育成、リカレント教育、問題解決的な学習などを実施。



ドローンを活用した物資救援の実証  
（瀬戸内町）



脱炭素先行地域に選出  
（和泊町、知名町）



問題解決的な学習の推進  
（与論町）



### 3. 基本理念（新ビジョン掲載頁：6～7）

「奄美群島成長戦略ビジョン2033」は、「群島民が幸せに生活するため、前ビジョンの基本理念である重点3分野（農業、観光／交流、情報）を継承しつつ、新たに3つの柱（つなぐ宝、稼ぐ力、支える基盤）を基軸として、自然と文化を守り受け継ぐとともに、仕事の創出に重点を置いた産業振興を目指す」ことを基本理念とする。

#### ➤ つなぐ宝

- 国内外から世界共通の宝として認められた奄美群島の自然環境や歴史、文化は唯一無二の価値を持ち、守るべき宝である。
- その価値を次世代に繋いでいくためには教育・学習活動の積極的な推進が必要。

#### ➤ 稼ぐ力

- 群島民の所得の向上を図るためには、経済の成長と域内循環率を高めることが重要。
- 農林水産業、ものづくり、観光／交流、情報通信業の4つの重点分野間の連携を図ることで相乗効果を得ることが重要。

#### ➤ 支える基盤

- 即戦力となる人材確保の観点から、移住・定住を促進する必要がある。
- 地理的、歴史的にもつながりの深い沖縄とは生活圏域として連携を図っていく必要がある。
- 脱炭素や自給自足の観点から、環境負荷に配慮した再生可能エネルギーの導入が期待される。

## 4. 奄美群島の将来像（新ビジョン掲載頁：8～9）

### ➤ 若者がチャレンジし、夢を実現する島

- チャレンジする若者たちが参加するコミュニティが形成される
- 若者たちが奄美群島の産業の中心的担い手として活躍する
- 「若者の夢が実現する島」



島ちゅチャレンジ応援事業の成果品

### ➤ 宝を守り、受け継ぎ、世界の人々と共有する島

- 先人が守り受け継いできた宝を積極的に情報発信
- 国内外の人々が奄美群島の魅力に共感
- 将来にわたって保全すべき宝として世界の人々と共有



人材育成事業成果発表会(ガンド)

### ➤ 全ての「島ちゅ」が主人公として活躍する島

- 来訪者やUIターン者、デジタル基盤を活用してつながる群島外出身者や事業者が奄美の価値を伝える担い手となる



## 5. 将来像実現のための基本方針と基本方策（新ビジョン掲載頁：10～18）

将来像を実現する上で、3つの柱（つなぐ宝、稼ぐ力、支える基盤）を共に磨き上げ、継続していくことによって、奄美群島における一体となった広域的な取組と展開圏域の拡大につながる持続可能な社会を形成する。

### (1) つなぐ宝

- 自然環境
- 文化
- 教育

### (2) 稼ぐ力

- 農林水産業
- ものづくり
- 観光／交流
- 情報通信業

### (3) 支える基盤

- ひと  
（教育、人材育成／確保、定住）
- エネルギー
- デジタル



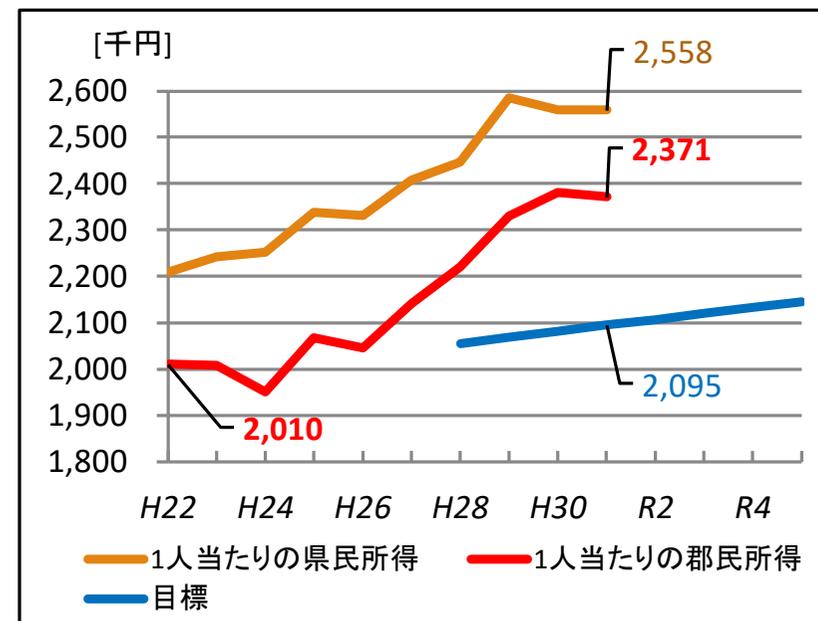
ビジョンマップ



# 6. ビジョンの達成度を評価する指標 (新ビジョン掲載頁:19)

## (1) 全体指標・・・群島全体に共通する指標

柱	分野	指標
つなぐ宝	自然環境	エコツーリズムに関する指標
	文化	伝統行事・方言に関する指標
	教育	環境学習活動・郷土教育に関する指標
稼ぐ力	全分野	所得に関する指標
	農林水産業	農業産出額・漁業生産額
	ものづくり	製造業従業者数
	観光／交流	観光収入
	情報通信業	情報通信業従業者数
支える基盤	ひと	人口
		就業者数
		移住者数
	エネルギー	再生可能エネルギーに関する指標
	デジタル	農業におけるデジタル技術活用数



参考(1人当たり所得)

## (2) 独自指標・・・各島の独自性や多様性を表すものとして特に設定する指標

分野	島名	指標
自然環境	喜界島	ジオパークガイドに関する指標
	奄美大島・徳之島	希少動物のロードキル数
ひと	喜界島	サンゴ留学に関する指標
	与論島	定期船の欠航・抜港数
エネルギー	沖永良部島	脱炭素に関する指標

## (3) 参考指標・・・定性的な指標や把握すべき数値

指標	内容
地域経済循環率	RESASを活用した各島ごとの経済循環率を算定(域内循環率向上にかかる指標)
定性的な指標	数値では現れない群島住民の感覚(幸福度など)の変化を指標として設定

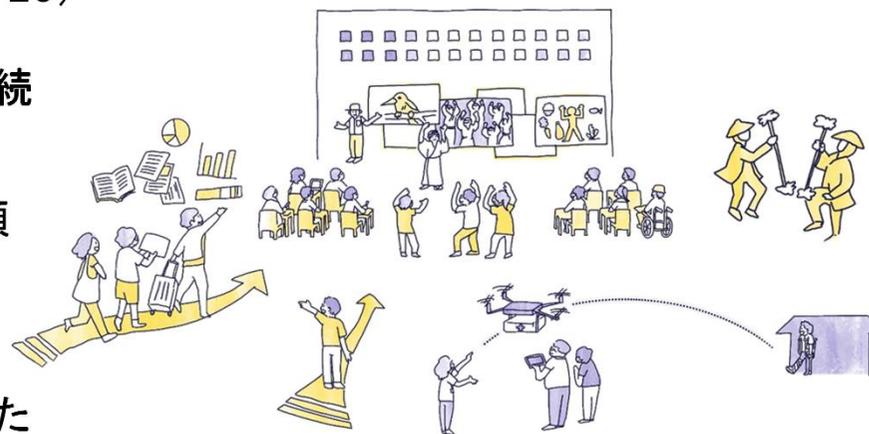
## 7-1. 島別の基本方針と基本方策（新ビジョン掲載頁：20～48）



## 【奄美大島】

（新ビジョン掲載頁：20～25）

- 世界自然遺産登録地域としてのブランドを構築・継続
- 誰もが訪れたい島、いつまでも暮らしたい島を目指し、来訪者満足度向上、滞在日数・観光消費額増加などを図る
- 共同キャンパスの設置検討
- ドローン活用した配送サービス、VRやARを活用した観光、デジタル人材の育成・確保 など



## 【喜界島】

（新ビジョン掲載頁：26～30）

- ジオガイドの育成など日本ジオパーク認定に向けた取組の推進
- 島内農産物の加工品を活かした販路拡大により生産者や加工業の所得向上
- サンゴ留学の推進、空き家対策等住居の確保、子育て環境の充実
- 自然エネルギー発電の検証と推進 など





## 7-3. 島別の基本方針と基本方策



## 【与論島】

(掲載頁: 43~48)

- 方言を話せる人材の育成、十五夜踊りなど伝統行事の継承
- 海洋教育による地域と連携した探究活動の実施
- 沖縄向けの農水産物出荷の推進
- 欠航・抜港に伴う物資供給の停滞による生活への影響を軽減するための新岸壁の整備
- 定住促進住宅の整備、遠隔診療や在宅診療ができる仕組みづくり など





## 8. ビジョン実現のために必要な制度等（新ビジョン掲載頁：49～53）

No.	制度名	追加区分	概要
1	奄美群島振興交付金の対象の追加・拡充	拡充	①教育及び文化の振興に関する事業 ②農業の振興に関する事業 ③移住及び定住等の促進に関する事業 ④沖縄との連携策の強化に関する事業 など
2	産業振興に対する支援	拡充	①出荷先の拡充（沖縄県） ②宅配便等の輸送コスト補助 など
3	奄美群島の地理的不利性に起因する格差の是正	拡充	①輸送コスト支援の拡充 ・補助対象区分の拡充（畜産業） ・輸送方法の拡充（台風時の航空機代替え出荷への補助） ②航空機燃料税の軽減措置の強化 ③離島割引の沖縄向け路線（航路航空路）への拡充 ④都市部との航路航空路運賃軽減制度の創設 ⑤ガソリン、軽油等の軽減措置の拡充 など
4	定住環境の整備	新設	①空き家改修の支援（定住促進住宅整備への助成等） ②公営住宅の整備及び情報通信基盤の整備等の施策にかかる国費率かさ上げなど国の予算措置を充実 など